

2018年度ユニーク卒論

人間福祉 学部

担当教員名	大和 三重
論文執筆者名	村田 紗織里
論文の題 (テーマ)	有料老人ホームで働く介護職のやりがいに関する研究
簡単な内容 (概要)	<p>超高齢社会を迎え今後さらに需要が高まる介護職であるが、3K労働、人手不足、高い離職率等、否定的なイメージが強く、介護職員不足が深刻になっている。それにも関わらず全国調査によると、実際に働いている介護職員は総じて仕事にやりがいを感じ高い満足度を示している。このことから何が介護職の働きがいを高めているのかを探るべく、介護職の「思い」に焦点を当てて、仕事に対するやりがいや「自分らしさ」の中身を明らかにするためアンケート調査を行った。154名の介護職を対象とした分析では、仕事のやりがいに影響を与えるものは入居者の笑顔やありがたいの言葉、自身の人間的成長であった。そして介護職を続けるためには「仕事のやりがい」が重要であることや「自分らしさ」をもって働くことが施設全体の職場環境やサービス向上につながると考えている職員がそれぞれ9割を超えており、仕事のやりがいや就労継続には「自分らしさ」を大切に、一人ひとりの多様性が尊重される組織が望ましいことが分かった。</p>
推薦の理由	<p>本研究は、介護人材不足という現代社会の深刻な課題に向き合い、否定的な側面ばかりが目立ちがちな介護という職業に対して前向きに取り組んだ意欲的な研究である。自身も将来の職業として介護職を選択しており、実際に現場で働く介護職員の全国調査の結果や自らが抱く介護業務の肯定的なイメージと、社会全般が抱く否定的なイメージの差異に疑問を持ったことが研究の背景となっている。社会的に負のイメージが先行することで介護職員の確保は非常に難しくなっている一方で、3年の壁を過ぎると定着する傾向がみられることや、離職率が高い施設と低い施設に分かれる傾向もみられる。このことから、就労継続を希望する介護職員は何にやりがいを感じているのかを、これまでの労働条件や職場環境等の要因ではなく、介護職員の「思い」に焦点を当てて分析を試みている。やりがいの中身は入居者の笑顔や感謝であり、それらを受ける過程で自身の成長を実感することである。さらに、本研究では介護職としての「自分らしさ」をみつける必要性を主張している。「自分らしさ」が必ずしも仕事のやりがいに影響するわけではないが、介護職としての「自分らしさ」を意識し、コントロールすることで入居者との相互作用に影響を与え、やりがいとなっていく。抽象的な概念である「自分らしさ」について、自身の介護観を基礎として真正面から難しい課題に挑戦した研究として高く評価できるため、ここにユニーク「卒論」に推薦する。</p>